

## 日銀金融政策決定会合（2024年6月）

植田総裁は歴史的な円安を「十分に注視」

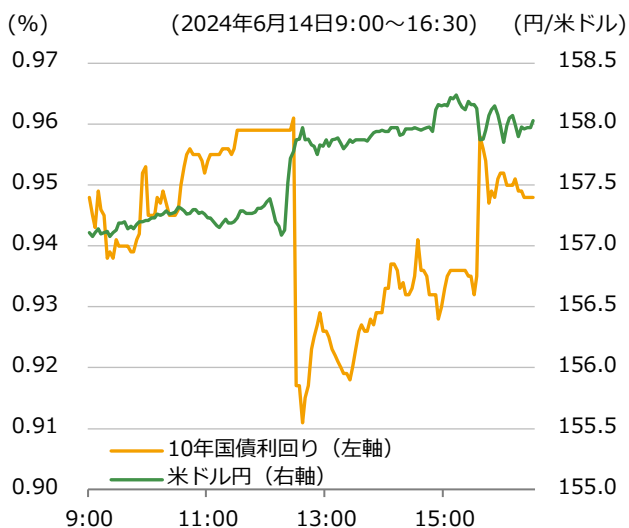
2024年6月17日

## 日銀は次回7月会合で国債買入を「相応の規模」で減額

6月13～14日に日本銀行（以下、日銀）は金融政策決定会合を開催し、これまで通り、無担保コールレート（オーバーナイト物）を0～0.1%程度で推移するよう促すことを決定しました。もっとも、今会合での政策据え置きは広く予想されていました。市場が注目していたのは観測報道があった国債買入の減額です。現在、日銀は月間6兆円程度の国債買入を行っており、このペースでの買入は日銀が保有する国債の償還と同程度です。つまり、国債買入を減額することはバランスシートの縮小（量的引き締め）になるために市場が注目していたわけです。蓋を開けてみると、①次回会合まで現状の買入方針を維持すること、②次回会合で今後1～2年程度の具体的な減額計画を決定すること、が示されました。この決定は市場でハト派サプライズと受け止められ、市場は金利低下・円安で反応しました。

記者会見で植田総裁は、国債買入減額について予見可能な形で、市場参加者の意見を聞きつつ丁寧に進めたいとの慎重な姿勢を見せました。一方で、足元の円安について輸入物価を通じた物価上昇圧力が再燃しつつあるとし、基調的な物価上昇率を考えるうえで十分に注視していく考えを示しました。国債買入減額の決定が次回7月会合に先送りされたことで、同会合での利上げ可能性が低下したとの見方もありますが、データ次第では利上げもあり得ると市場を牽制しました。減額幅は「相応の規模になる」との発言もあり、次回会合までの市場は、具体的な減額幅を探っていく展開になると考えられます。

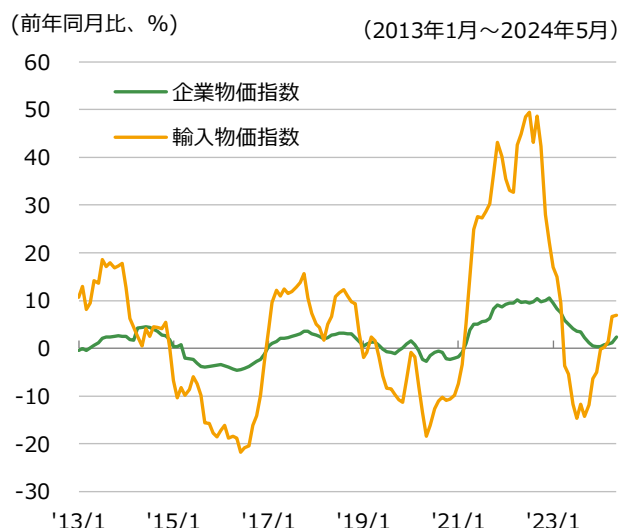
## 6月14日の10年国債利回りと米ドル円の動き



※3分足、値のない時刻は直前値を使用

(出所) ブルームバーグより大和アセット作成

## 企業物価指数と輸入物価指数



(出所) ブルームバーグより大和アセット作成

## 当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management